



2022年3月期 決算説明資料

本日のアジェンダ

1. 2022年 3月期 決算ハイライト
2. 決算の概要
3. 今後の展望・方針

2022年 3月期 決算ハイライト

ハイライト

①継続的な新型コロナウイルス感染拡大の影響で、売上は微減

- ・連結売上高は、3,701百万円（前年同期比：98.0%）
- ・マテリアル（意匠撚糸）事業・ライフスタイル（寝装）事業
ファッション（洋装）事業は営業黒字を実現
- ・きもの事業は営業赤字となったが、大幅な赤字縮小
- ・組織体制、全経費の精査・見直しにより固定費の大幅削減
（経費総額 ▲215百万円 前年比85.7%）
- ・営業損失は、173百万円（前年同期：営業損失 536百万円）

②財務状況は、新型コロナウイルス影響も健全な状態を維持

<22年3月期末ベース>

現金及び現金同等物 1,039百万円

<無借金経営を継続>

流動比率 515.0%

自己資本比率 80.9%

③資本金及び資本準備金の額の減少（2021年8月1日付）

資本金 100百万円・資本準備金 100百万円に減額
外形標準課税対象外れ、減税効果あり

決算の概要

決算概況：連結損益計算書

- 新型コロナウイルスの感染拡大の百貨店等の休業影響もあり大幅な改善には至りませんでしたでしたが、原価構造の見直し及び販管費の圧縮などにより利益面では大幅な改善となった。
- 馬里邑ブランド事業撤退の影響を除くと売上高前年同期比105.4%と回復傾向
- 継続的な構造改革を推進
寝装専門店卸及びベビー・キッズ専門店卸からの事業撤退：特別損失30百万円

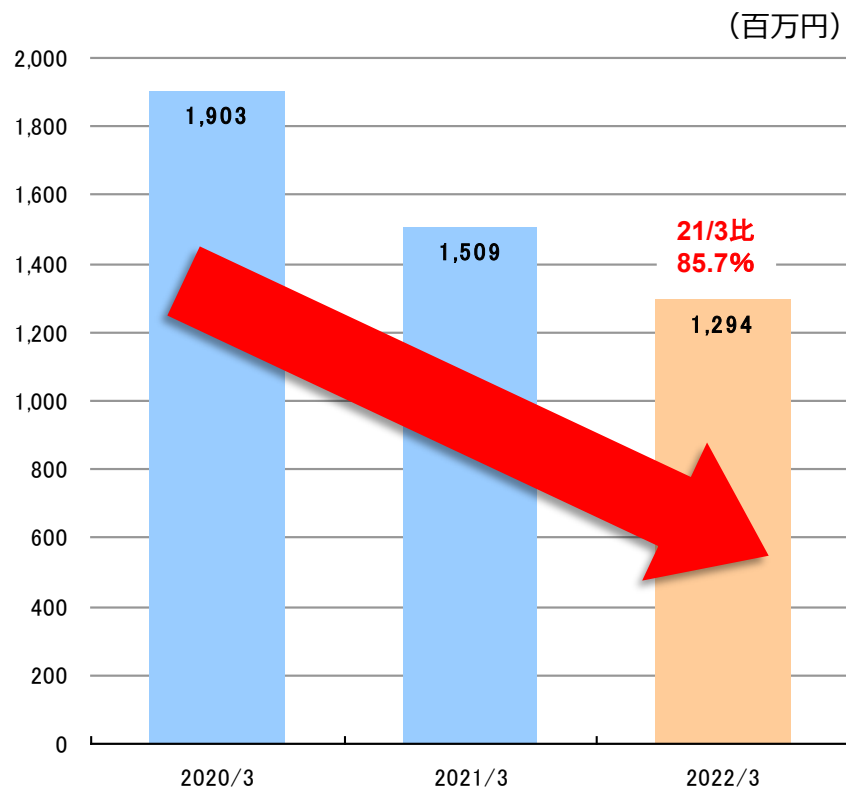
(百万円)

	2022年3月期	2021年3月期	前年同期比増減額
売上高	3,701	3,779	98.0%
売上総利益	1,120	973	+147
販管費計	1,294	1,509	▲215
営業利益	▲173	▲536	+362
経常利益	▲147	▲530	+382
当期純利益	▲207	▲809	+602

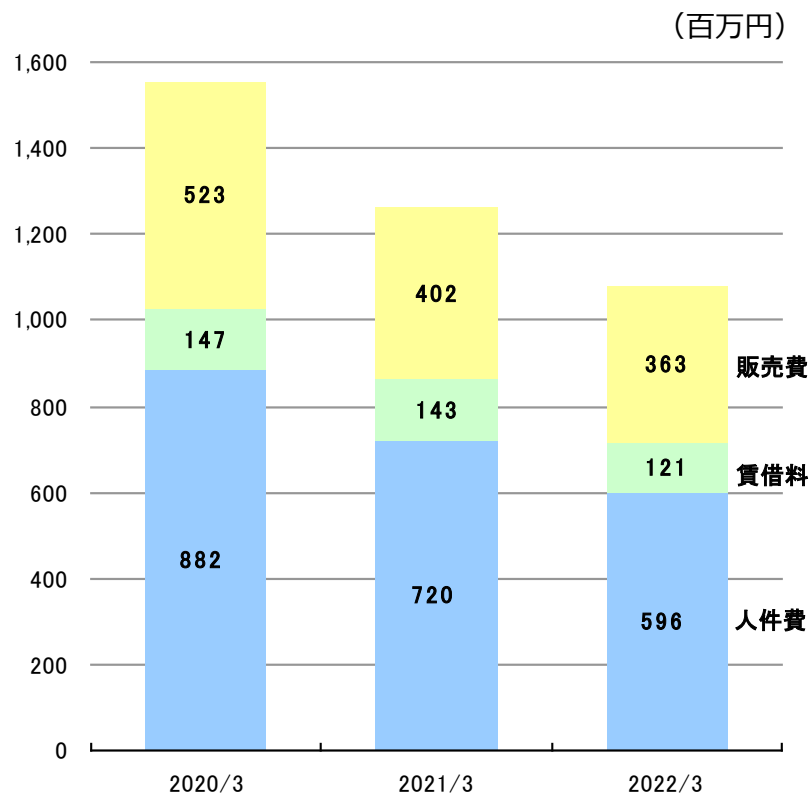
販売費および一般管理費

継続的に各種経費の削減に取り組み固定費を抑制
経費総計では前年同期比85.7%

経費総額



主要経費内訳



決算概況：セグメント業績

- マテリアル（意匠撚糸）事業及びライフスタイル（寝装）事業は営業黒字を継続
- ファッション（洋装）事業は前期馬里邑ブランド事業撤退に伴い、収益構造が大幅に改善したことにより営業黒字へ転換
- きもの（和装）事業は原価構造の見直し及び固定費圧縮により、赤字が大幅縮小

(百万円：%)

	売上高				営業利益		
	2022年3月期	2021年3月期	増減額	前年同期比	2022年3月期	2021年3月期	増減額
連結	3,701	3,779	▲78	98.0	▲173	▲536	+362
きもの (和装)	672	695	▲22	96.8	▲33	▲181	+148
ライフスタイル (寝装)	433	477	▲43	90.8	12	26	▲14
ファッション (洋装)	1,283	1,434	▲150	89.5	11	▲180	+191
マテリアル (意匠撚糸)	1,311	1,171	+139	111.9	28	4	+23
本社・調整	0	0	-	-	▲192	▲204	+12

今期よりセグメント名称を変更しております。

※連結売上高、経常利益、当期利益は連結相殺を含んでおります。

決算概況：連結貸借対照表

- 流動資産 : 現金及び預金1,190百万円が減少
: 短期貸付金1,000百万円、商品及び製品80百万円増加
- 固定資産 : 敷金保証金が10百万円減少
- 負債 : 未払金19百万円、未払法人税4百万円減少
- 資本金 : 2,937百万円 ⇒ 100百万円に減少
- 自己資本比率 : 80.9%

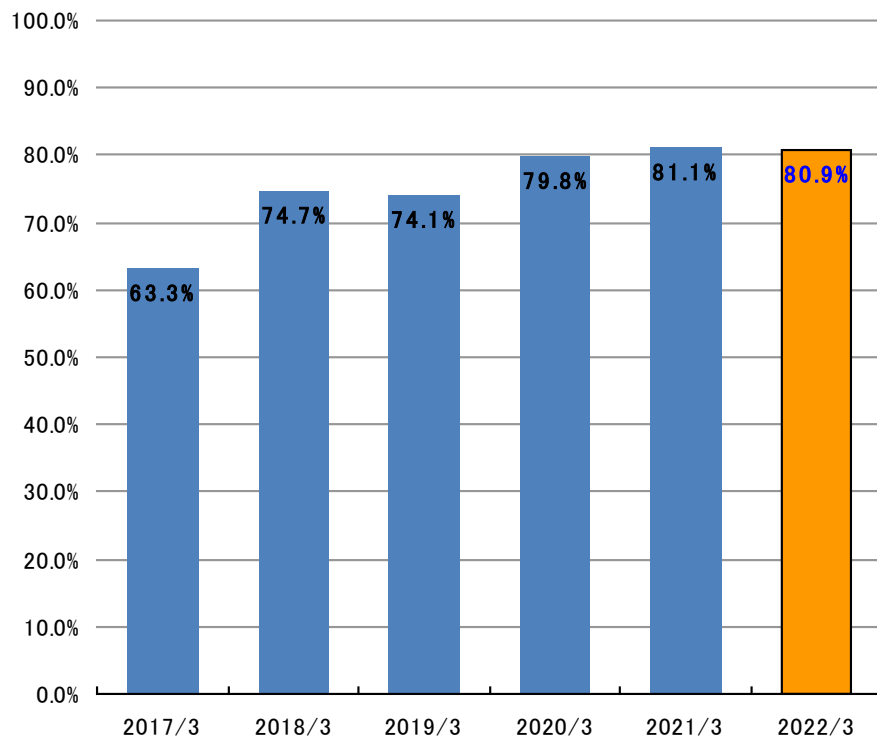
(百万円)

	2022年3月期	2021年3月期	前期比増減額
流動資産	3,639	3,835	▲196
固定資産	182	205	▲22
資産合計	3,821	4,040	▲219
流動負債	706	729	▲22
固定負債	24	34	▲9
純資産	3,090	3,276	▲186
負債純資産合計	3,821	4,040	▲219

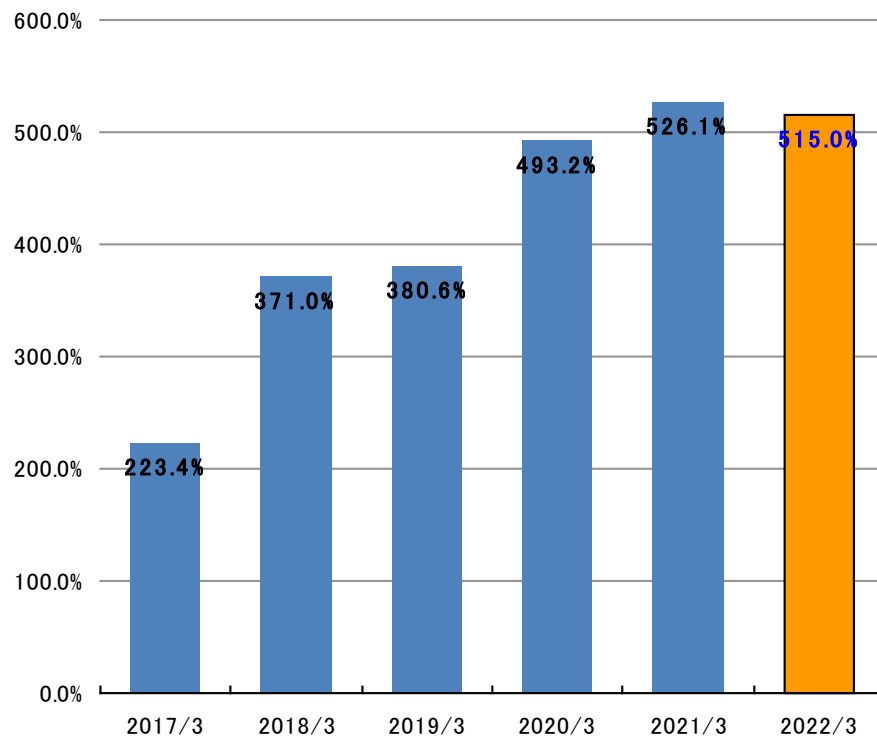
自己資本比率・流動比率

自己資本比率は80.9%、流動比率は515.0%
健全な水準を維持

自己資本比率



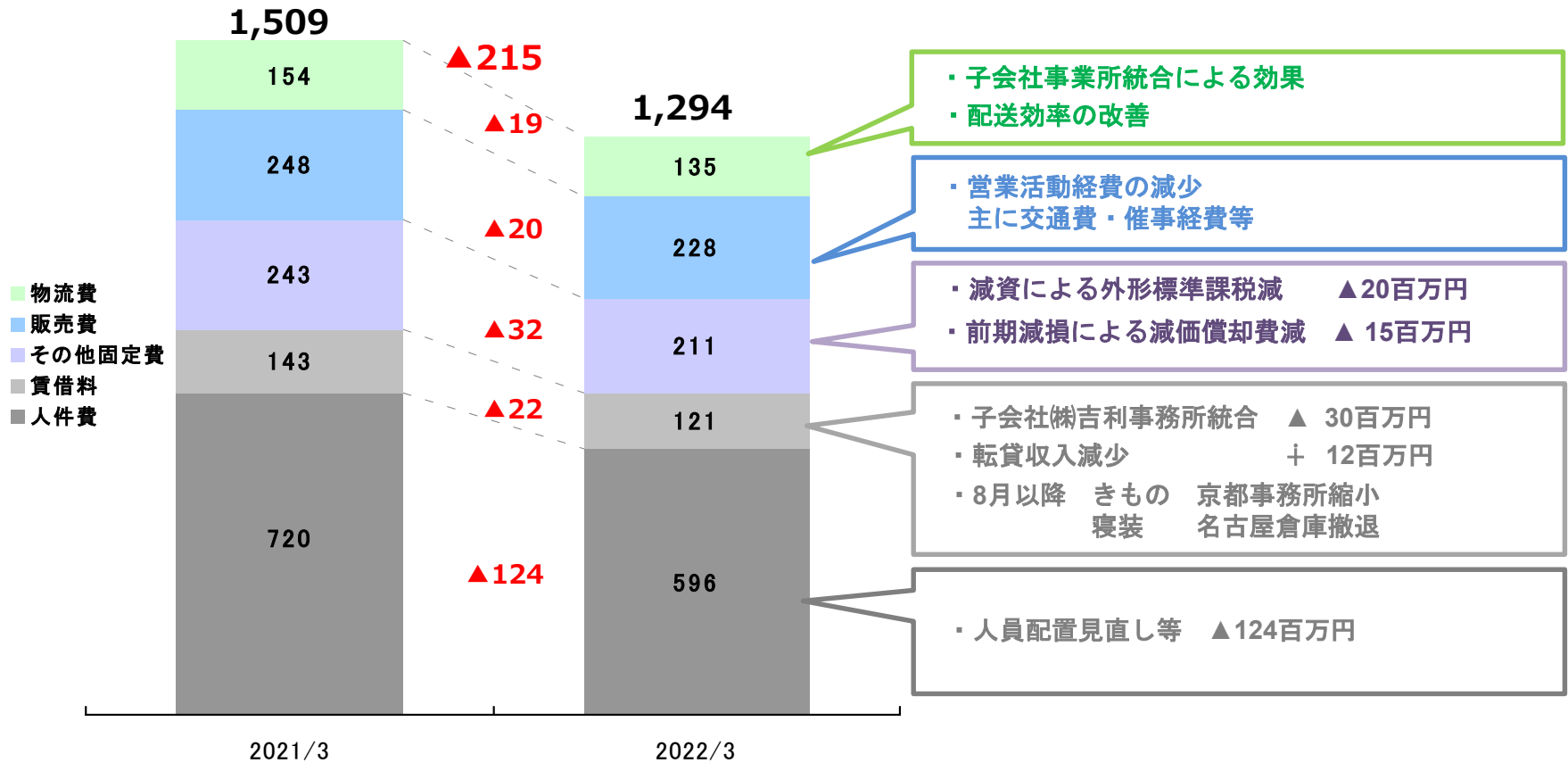
流動比率



収益構造の改善

経費の最適化 (百万円)

固定費の圧縮 ▲178百万円



収益構造の改善

損益分岐点売上高 (百万円)

7,329

4,553

2021/3

2022/3

- ・ 売上総利益の改善 +4.5%
- ・ 固定費の圧縮 ▲178百万円

損益分岐点売上高
62.1%に低下

収益構造の改善が進む

損益分岐点売上高：固定費 / $1 - (\text{売上原価} + \text{変動費}) / \text{売上収益}$

今後の展望・方針

今後の展望・方針

①事業ポートフォリオ最適化

-中長期視点での価値創造を前提とした事業の選択・集中・投資を継続的に推進

②マテリアル事業・ファッション事業へ重点的に経営資源を投下

-コスト上昇に対し、商材の価値を総合的に高めていく

-サステナブルの重要性は高まっており、様々なアプローチをしていく

-サプライチェーンの最適化を図っていく

-マテリアル上海事業ならびに中国内需向けの売上拡大に注力する

-糸から製品（アパレル）までの価値連鎖

-デジタルの重要性は高まっており、一方でリアル店舗の存在意義も問われている

③モノ作りを推進するとともに直販（D2C）事業を構築

-既存事業のリソースを活用したモノ作りを推進する

-商材ごとに事業形態を最適化する：B2C（D2C）・B2B2C・OEM受託

-特にB2C（D2C）事業構築に注力し、販売チャネルは商材ごとに最適化する

-モノ作りから販売に至るまでマーケティング施策を推進する

119期事業ポートフォリオ

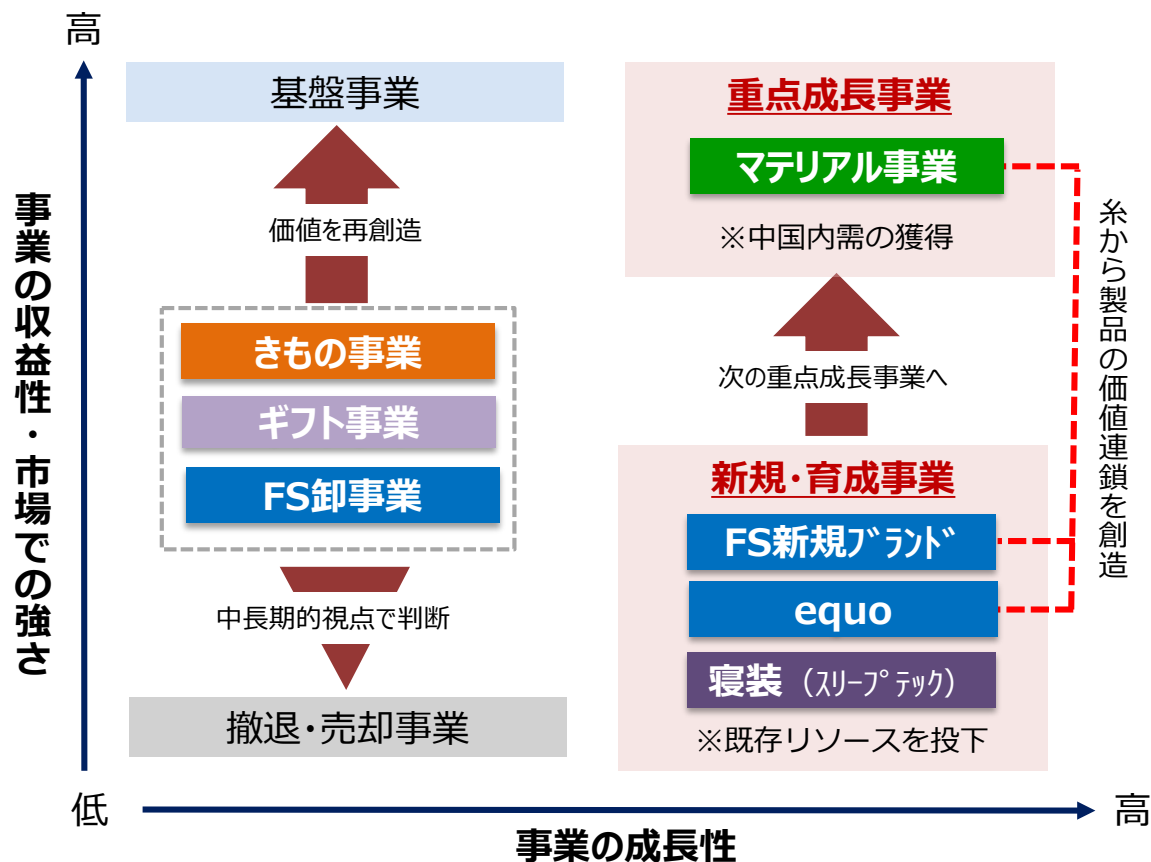
中長期視点での価値創造を前提とした事業の選択・集中・投資を継続的に推進



※FS:ファッション事業

※マテリアル製品企画 (equo) はFS事業へ再編

※ジュエリーはきもの事業へ再統合



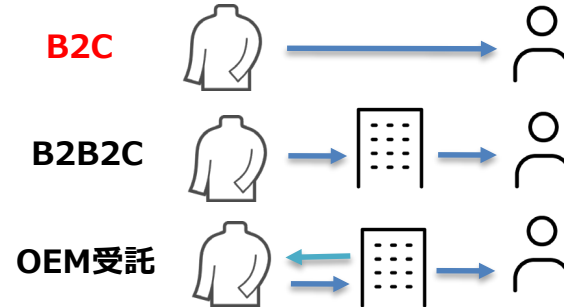
モノ作りの推進／B2C事業構築

お客様起点でのモノづくり



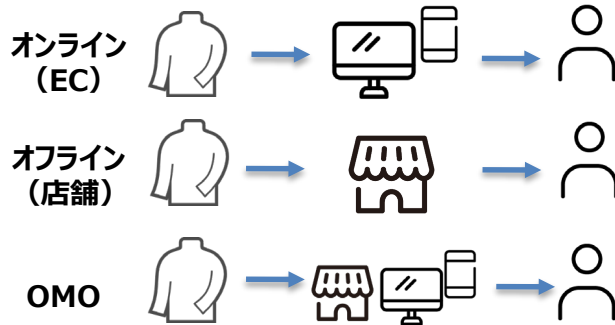
既存事業のリソースをフル活用
PB商品開発への積極投資

事業形態最適化



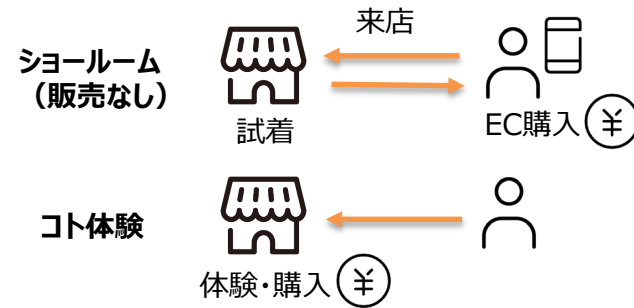
商材ごとに事業形態を最適化

B2C販売チャネル最適化



商材ごとにチャネル最適化

店舗でのCX最適化



商材ごとにCX最適化

← マーケティング施策 →

免 責 事 項

本資料は、当社の企業説明に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません

本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性・完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがありますので予めご了承ください